



相談室便い

◆◆第17号◆◆

ご入学おめでとうございます

平成28年4月

この春のよき日に、岡山大安寺中等教育学校にご入学されるみなさん、保護者の方々に心よりお祝い申し上げます。教育相談室の紹介をいたします。

中等教育学校では、子どもたちが6年間という長い期間を共に過ごし、成長・発達していきます。この思春期の6年間は、心も体も子どもから大人へと劇的に変化する不安定な時期でもあります。そのため心身ともに健康な多くの子どもにも、さまざまな悩みや不安が生じたり、問題行動が現れたりすることがあると考えています。そのような場合には、担任だけでなく校内みんなで協力して支援していきます。ご家庭の方でもしっかりと寄り添い、支え見守っていただきますようお願いいたします。

◆◆教育相談支援体制◆◆

○スクールカウンセラー 倭 和子(やまと かずこ) 先生 に来ていただいています。

訪問日 毎週 木曜日 12:00~16:00

生徒を対象として、悩みや話を聞いていただいたり、コミュニケーション体験をしていただいたりといった支援が受けられます。また保護者の方の面談も受けていただいています。

本年度の第1回目は4月14日(木)です。

以後の詳細い日程は後日お知らせいたします。

○校医 皆尾 公司先生(みなおクリニック院長) による相談もあります。

校医の「こころの健康相談」を年3回(学期に1回)実施しています。

専門的な視点からのアドバイスが受けられる機会です。

5月26日(木) 10月20日(木) 2月9日(木)の予定

です。その都度文書でご案内いたします。



○緊急な場合は、教育相談担当者が対応します。

大西 由美(室長・5年団) 保護者の方の電話相談にも可能な範囲で対応します。

三阪 良一(6年団) 小網 亜紀(6年団) 北田 祐佳(4年団)

向井 亜紀(養護教諭・4年団) 竹花 博子(3年団) 鳥越 威志(2年団)

出井 幸恵(2年団) 原 亜衣(1年団) 友重 望(養護教諭・1年団)

◆◆相談室便り（過去の記事のご紹介）◆◆

教育相談室が発行している「相談室便り」に載った記事をご紹介します。よろしければお読みください。中等教育学校教員が記事を担当しています。本年度も発行する予定ですので、お手もとに届いた際はお読みいただければ幸いです。

「聴く」力（平成27年12月第15号より）



教諭 竹花 博子

私には小2の息子と5歳の娘がいます。平日の夕方は祖母と一緒に過ごし、私が仕事が終わったら実家に迎えに行ったり、送ってもらったりしています。子どもたちが我が家に帰って来て寝かせるまでは時間との戦いです。洗濯物の片付け、お風呂、本読み計算（小学校の宿題！）、明日の小学校の準備、寝る準備。ああ、忙しい・・・なのは私だけの様子。話をきいてもらいたい子どもたちは、順番かまわず話をします。最近の話題はもっばら生活（学芸）発表会の話題。「合奏でカスタネットするんよ。」「劇は〇〇で、おたからまんちの役よ～」「金のがちょうみたいな話なんじゃけど×××って内容、知ってる？」・・・う～ん、私の知らない物語だな、その役なんだ！？カスタネットは昨日も聞いたな・・・じっくりと聴いてみればずっと頭に入ってくるでしょうが、自分のやることを優先してしまい、立ち止まって聴いてあげることができないことが多くあるのです。何回も聞いたことがある話は特に・・・

教育相談の係になって2年目。「教育相談的な活動」についてもっと勉強しなければならぬなと思い、11月に大阪に研修に行きました。いろいろな講座の中で「話の聴き方」や「非言語のコミュニケーション」などのコミュニケーションについてのトレーニングが心に留まりました。「話の聴き方」は、3つのパターンの聴き方をロールプレイします。1つ目は「えらそうなきき方」。足や腕を組む、上から目線の反応、相手のことより自分のことを話そうとする。話していても、「このまま話を続けてもいいのかな」「怖い」と、不安な気持ちになってしまいました。2つ目は「関心のない聞き方」。気のない返事、よそ見、携帯をさわりながら、あくびをする。「この人は話を聞きたくないんだ」「迷惑をかけているな」と感じ、話が進みません。最後に「積極的な聴き方」。前のめり、目を見て、共感するような相づち、笑顔。「私の気持ちを受け入れてくれている」「もうちょっと話そうかな」「聴いてもらってよかった」と気持ちがホッとし、肯定的な感情がうまれました。意識して実践することで、話し手にとって「聴き手」がどれだけ大きな存在であるか、どれだけ大きな役割を担っているか、どれだけ大切なのか、を改めて実感しました。

ここ最近、「聴くこと」について考えさせられる機会が多くありました。「いい意見を引き出すためには聴く雰囲気が必要」という英語のスピーチを書いた生徒。小学校での職場体験で「児童の目線に合わせて話をすることが大切」と体験を述べてくれた生徒。異文化交流会で前のめりで留学生の話を聞いていた生徒たち。「コミュニケーションはどうだった？」という問いを留学生にすると全員が一斉に“Nice!”とってくれたこと。いろいろな場面で「聴き方」の大切さが言われ、また、実践することで好ましい関係を築くことができるのでしょうか。どんな「聴き方」がいいのか、頭の中で分かっているけど、実践するのはなかなか難しいですが、よいコミュニケーション、よい人間関係をつくっていくために、「聴く」には大きな大きなパワーを持っているはずですよ。

研修から戻って、子どもたちに「聴く」コツを意識して実践。そのとき娘が言った言葉。「今日のお母さん、やさしいね～♪」・・・そう言ってもらえて嬉しいです・・・

（たけはな ひろこ 教育相談係 3年英語科）

見守ることの難しさ(平成26年7月第8号より)



教諭 大西 由美

ある日の放課後、女の子が一人相談室にやってきました。仮に A さんとしましょう。彼女は日頃から、欠席もなくまじめに生活している、特に問題のない普通の生徒です。「先生、ちょっといいですか…」と笑顔で入ってきました。「いいよ、なあに？ま、おすわりなさい…」。椅子を勧めると「ありがとうございます」とまたさわやかな笑顔です。「どうぞ、何からでも、話しやすいことから…」と促すと、「別に悩みというわけではないんですけど」と前置きしてから話し始めました。A さんの話の要点をまとめると「自分はもう、勉強も、部活も、自分で考えて自分のためになると思うやり方でやっていきたいから、信頼して任せてほしいと思っている。けれども、お家の方が何かにつけてアドバイスをしたがるので正直鬱陶しい。心配してくれるのはありがたいと思うけど、いちいちうるさい、というのが本音。この前はつい大きい声で、うるさい、ほっとつてよ！！と叫んでしまった」というものでした。「何が一番、つらかったかなあ？」と尋ねると、少し沈黙、目を潤ませて「自信があるわけじゃない…でも**自分は自分でやってみたい…**」と言いました。「不安なんじゃなあ。でも自分の考えたやり方で、勉強や部活を頑張ってみたいんだね…」と言葉を返すと大きく頷きました。そして「大きい声で叫んでしまって、そしたらお母さんがびっくりして、お母さんが半泣きになったから…」と自分も半泣きの A さん。「お母さんのことは大好きなんだね。」と私…「じゃ、どうしたらいいかな。一緒に考えようなあ」。その後、お家の方には「自分がいいと思うやり方でやってみたいから**見守ってくれるとうれしい。**」と伝えることと「この前は大きい声を出して驚かせてごめんね。」と謝ることに話がまとまり、その日の相談は終わりました。

A さんのように、思春期の子供が親の庇護から離れて自立していこうとする面と、不安を抱えて揺れ動き支えを求めている面との両方を持っていることは当たり前のことです。また、親の立場からすれば、子供がいくら大きくなっても、つい、人生の先輩として、子供の幸せのためにあれこれアドバイスしたくなるものです。「見守り支える」--言うは易く行うは難しです。もちろん社会のルールの中で道義的・倫理的に許されないことは、はっきりと NO と言いつめさせることも親の努めですが、肝心なのは「見守ること」と「教導」とのバランスなのでしょうね。(これはわれわれ教師と生徒との関係にも言えることです。)子供が一人一人違いますから、これぞ極意というものなどなく、実に難しい。「子供とのよいかかわり方」の問題は多かれ少なかれ、保護者の方の共通の悩みであるのではないのでしょうか。

さて、A さんの後日談。「見守ってくれるとうれしい」と伝えると、お母さんは「いつでも見守っているよ」とお答えになったそうです。そして「(思うように) やってみたいらしい。でも困ったら相談するんよ」と言ってくださり、その後は口出しや指示が「少し減ったかなあって感じ」だそうです。A さんは毎日休まず登校しています。

大切な我が子であればこそ、幸せに生きてほしいと願えばこそ、親は心配もするし腹も立てます。そんな親のありがたさ、かけがえのなさをどこかでわかっているながら、時に反抗したり無視したりして、自立に向けて葛藤しつつ成長していくのが子供たちです。だとするなら、やはり人生の先輩である親の方が、危なっかしい子供に手を貸したくなるのをぐっと辛抱することが思春期には大切なことであると思います。そして子供が倒

